

# 見所いっぱい、 彩の国シェイクスピア・シリーズ

蜷川幸雄が彩の国さいたま芸術劇場の開館以来、取り組んでいる彩の国シェイクスピア・シリーズの第16弾・17弾がよいよ決定した。ローマ史を題材とした『コリオレイナス』とオールメール・シリーズ第3弾の喜劇『恋の骨折り損』という、今から楽しみな二作。演出の蜷川幸雄に意気込みを聞くと共に、現在、まさにこの二作品の翻訳に取り掛かっている松岡和子さんに、それぞれの作品の魅力について、語っていただいた。



蜷川幸雄

さいたまゴールド・シアターの中間発表会(P.20～22参照)が終わったと思ったら、年内には『オレステス』『タンゴ・冬の終わりに』が控え、休むまのない蜷川幸雄だが、来年の彩の国シェイクスピア・シリーズに向け、早くも走り始めているようだ。「今回、この二作品を選んだというのはね、『コリオレイナス』は悲劇で、『恋の骨折り損』は喜劇で、対称的なシェイクスピア作品を楽しんでもらいたいと思って」

この二作品はキャストも対称的だ。『コリオレイナス』は主演の唐沢寿明を始め、白石加代子、勝村政信と「実力を持った中堅の俳優たち」であり、それぞれ過去の蜷川作品でも重要な役どころを演じてきた役者たちで固めている。

一方、『恋の骨折り損』は、北村一輝、姜暢雄、窪塚俊介、中村友也ら蜷川作品初登場の新鋭を始め、「若い俳優で、いい男揃い」。この『恋の骨折り損』は、男性が女役も演じるオールメール・シリーズの3弾目でもあるが、このシリーズ出演をきっかけに大きく飛躍した若手俳優も出てきている。第1弾の『お気に召すまま』では成宮寛貴、第2弾の『間違いの喜劇』では小栗旬をそれぞれ主役に抜擢したが、その後の2人の活躍ぶりは周知のとおり。いつもあっと驚くキャスト選びをする蜷川だが、今回の北村選出について、「テレビでホストを演っているを

## Cast

TOSHIAKI  
KARASAWA



コリオレイナスを演じる唐沢寿明。

## 「悲劇と喜劇、中堅俳優と若手俳優 対称的な二作品を楽しんでもらいたい」

見てね、その時、思ったんだよ、彼はシェイクスピアをできるかもしれないって」と語っている。舞台経験はあまりない若手俳優たちが、どんな成長を見せてくれるかも、見所のひとつだ。

先に公演のある『コリオレイナス』に関しては、すでに蜷川はかなり具体的な演出イメージを持っているようだ。「『コリオレイナス』はローマものなんだけど、今までも『タイタス・アンドロニカス』などローマものは結構やってきているでしょう。だから、どういうふう違った演出にできるか、難しいところなんです」

『コリオレイナス』は裁判劇に近いところがあり、そのため絵柄が地味になりがちだと

いう。それをどうやって見せていくか、秘策を練っているとのこと。舞台美術などビジュアル面でも毎回、思いも寄らない演出で、見るものに嬉しい驚きを与えてくれる蜷川だが、その期待に今回はどう応えてくれるか。当人にはプレッシャーでもあるが、それだけに燃えている様子。

実はこの作品、ロンドンにあるバービカン劇場での公演が予定されている。そこに蜷川は45名にも及ぶ役者陣を連れ、乗り込む。「俳優としての力もあるし、人間としても魅力のある唐沢と、日本的な独自性を持っている白石を中心に据え、『コリオレイナス』の人間のな面をじっくり描きたい。いい作品を残すのはじいじの遺言だと思ってますから」

MASANOBU  
KATSUMURA



コリオレイナスの母ヴォラムニア役の白石加代子。



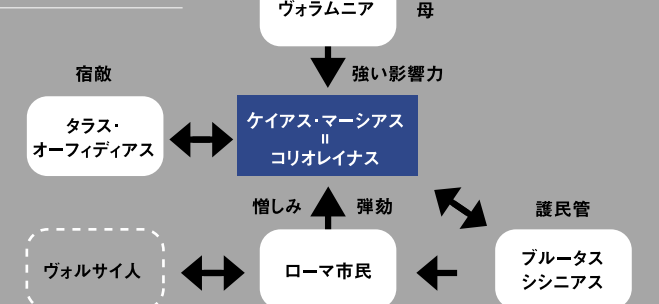
コリオレイナスの宿敵タラス・オーフィディアス役の勝村政信。

KAYOKO  
SHIRAISHI

## Story

貴族であるケイアス・マーシアスは、尊大なためローマ市民たちに敬遠されている。だが、ローマと対決するタラス・オーフィディアス率いるヴォルサイ人に勝利し、その首都コロライを陥落させた功績により、コリオレイナスという名が与えられ、執政官に推される。正式に就任するには市民の許諾が必要なため、しぶしぶコリオレイナスは慣例どおり粗末な服を着て市民の前に出る。しかし、護民官のブルータスとシシニアスにけしかけられた市民により、弾劾されてしまう。誇り高いコリオレイナスは、一度は母親のヴォラムニアの説得に応じるものの、市民に謝罪せず追放の身に。自分を追放したローマに復讐するために、コリオレイナスはかつての敵オーフィディアスと手を組むが、再びヴォラムニアの必死の説得で、ローマと和解することを決意する。その彼を待っていたのは……。

『コリオレイナス』  
人物関係図(略)



## 第16弾『コリオレイナス』

【日時】2007年1月23日(火)～2月8日(木)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【出演】唐沢寿明、白石加代子、勝村政信、香寿たつき、吉田鋼太郎、嵯峨哲朗ほか

【チケット(税込)】S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

【発売日】10月14日(土) ※『恋の骨折り損』と2作品同時購入優先発売 9月30日(土)

## 日本人の精神性や現代社会に通じる『コリオレイナス』 松岡和子

『コリオレイナス』はジェイムズ朝に入ってから書かれたシェイクスピア後期の作品です。この時期の作品群はエリザベス一世の時代のものよりも暗い影が射していて、『コリオレイナス』も人間を苦味を持って捉えています。けれど、不思議なんです。今、来年の公演に向けて半分以上翻訳したところなんです、訳していると、読んでいた時とは違う発見がある。これまでのコリオレイナスのイメージは、劇中でローマ市民が見ているのと同じで、好きになれないキャラクターだった。そんなに母親の言いなりにならなくてもいいじゃないかと思ったり。けれどだんだんと彼に肩入れしたくなってきます。

確かに彼は傲慢ですが、徹底した反ポピュリズムの人だし、人にも厳しい分、自分にも厳しい。人前で自分が褒められたりすることも嫌がる人で、そういう意味ではこれほど筋の通った人間もいない。筋を通さなくするのは母親なんですね。コリオレイナスはだから、とにかくいろいろな場面で板ばさみになる。貴族として矜持と、大衆との板ばさみになったり、自分の信念と母親の夢をかなえたいという思いとの板ばさみ、ロー

マへの忠誠とオーフィディアスへの信義の板ばさみになったり。そして何重もの板ばさみに結局はつぶされるわけです。観る側からしても、一瞬一瞬で、どちらに肩入れしたくなるかわ変わるはず。そこに緊張感が生まれ、観ていてスリルがあると思います。この作品にははっきりとした悪役がなくて、その人のものの見方や考え方でどうとでもとれる。シェイクスピアは複眼の人ですが、その特徴が最大に発揮された作品ではないでしょうか。

日本人の昔からの精神構造との接点も見つけやすい作品でもあります。名誉や誇りを第一に考えて、それが汚されれば切腹、といったような。武家社会で家名を存続させようとしたのは女だという側面もありますが、それはまさに母ヴォラムニアに通じます。

また、この作品でシェイクスピアはこんなにも今までのことを書いてるんだと改めて驚かされます。政治家やリーダーによって、いかに大衆を含めた国が動かされるか。同時に大衆によっていかに政治家やリーダーが動かされるか。この作品を通して、改めてそういうことを考えさせられます。